



(一社) 情報通信設備協会 東海地方本部
本部長 井上 新一

■□ 2019年 年頭のご挨拶 □■

皆さん、明けましておめでとうございます。
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
旧年中は、当協会の事業運営にご理解とご協力を賜り有難う御座いました。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、米国トランプ大統領と北朝鮮金委員長の会談が実現し少なからず良い方向へ向かう期待感を持ちましたが、非核化問題は具体論が示されず北朝鮮のペースになりつつある気がいたします。

国内に目を向けると、大阪の地震、西日本豪雨、大型台風の複数の上陸、札幌の地震など、災害が多く発生しました。明るい話題は日経平均株価が26年ぶりに2万4千円台を記録、平昌オリンピックでの日本選手の活躍、大坂なおみ選手の全米オープンの優勝などがありました。大相撲では様々な問題が噴出したしました。

今年は、活力あふれる日本の未来を想像できるような、明るい兆しが訪れる事を期待しております。

今年の干支、己亥(つちのとい)年は完成した自己や成熟した組織が、足元を固めて、次の段階を目指す準備をする年といわれています。60年前の1959年の己亥年は、東海道新幹線の起工式が行われています。

これまで、私たちの通信業界は日本の成長を下支えしてきましたが、いまや電気、水道、ガスに肩を並べる社会インフラとしての地位を確立しました。今後、益々重要度が増し、ICTを活用した高齢化社会対策、AI/IoTの活用による働き方改革、車の自動運転をより安全なものとする車車間/路車間通信など、通信業界が牽引すべく、より一層の技術力向上が必要になると考えられます。

このような時代において私たちは、現在行っている仕事のやり方を見直す時期ではないでしょうか。働き方改革、技術者の育成、外国人材の登用など、身近な課題として捕らえる必要があるのではないかと思います。また、技術革新への素早い適応が出来なければ、通信業界が他業界へ吸収されてしまう事にもなりかねません。

会員企業が継続的に発展し、今後益々熾烈になる競争を乗り越え、Win-Winな関係を顧客と築き、成長していく事が重要かと思えます。

協会も改革を行っていきます。より会員の皆様の役に立つ実践的な事業を実施してまいります。
皆さんと手を取り合い考動・共生し魅力ある協会にして行く事で社会に貢献することを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。